

いの流水俳壇

季題 「新年、正月、冬」

友章 水月選
手作りの双六孫と賽を振る

大川 節弥
(評)お正月に手作りの双六で孫達と賽子を振り「上がり」を競って遊んでいる。久しぶりに家族が集まって双六をやる団欒の楽しい一齣である。私達の子どものころには双六、カルタ取りや独楽回し羽根つきなど沢山あつてよく遊んだものである。しかし時代の流れと共に遊びも変わってしまい、テレビゲームやスマホなどの一人遊びが多くなり家族や他人との関係に影を落としているのではないかと危惧するものである。

鷹羽 狩行
○負け役の父呼びに来る絵双六
一月の眉しつかりと弓なりに
(評)新しい年を迎えた。毎朝化粧し弓なりの眉にしつかり眉墨、紅を引いて身形を整えている作者である。特に女性として毎日容姿を整えるのは身嗜みでもある。一年の計は元旦にありとか普段からの心掛けが大切である。外面の美しさは内なる美しさから生まれる。逆に内面の美しさは外面を美しくするものである。
○六十も女盛りや初鏡

植田 紀子
矢野 絢
三世代集う炬燵を継ぎ足して
川村 博子
(評)お正月に息子や孫達が集まり炬燵

に入り切れなくなつてもう一台継ぎ足した。
久しぶりに3世代が揃い四方山話に花を咲かせ、お節料理を食べお屠蘇を飲んで賑わい、両親、子どもや孫達もはしゃぎ楽しい幸福な団欒であつたであらう。

不登校やいじめ、家庭内暴力、親子の確執、殺人など殺伐な世相の中、3世代の心温まる家庭のお正月である。
○母方の客のみ残る炬燵かな

中谷 葉留
毛筆に墨のぼりくる初硯
刈谷 志津
(評)書初めをしようとい硯の墨汁に新しい筆を入れると徐々に墨汁が上つてくるのをじつと見つめている作者である。
墨汁に筆の穂先をつけて、墨汁を含ませ、気分を改め心を落ち着かせ字を書くうとしている姿が見える様である。
たとえ硯が古くても書初めとなると心が爽やかな気持ちとなるのである。
季語の初硯とは新年となつて初めて使う意味とお祝の喜びの意味がある。例えば初夢、初明、初鶯、初鱈などたくさんある。
○初硯うなじをのべて磨りにけり

橋本 鶏二
二句抄
年迎ふ水住となるこの街で
小野川町子
侘助やときに孤独になるも良し
岡村 嘉夫
元日や晴れ着見せ来る隣の子
森岡 照月
初夢は茄子の漬物程の良さ
田蔦恵美子
福俵幸せ託す初詣
手作りの思いを惜しみ松納
恙なく生きて初日を浴びにけり
思い愛し福寿草の鉢いかにせん
竹崎たかひろ
万物をゼロに戻して初景色
移ろいの早さへ消える松の内

友来たる少し装ふ去年今年
見送るて三日は暮れ月笑ふ
新春の空にまづき膝を付く
年新た未知の幸せ疑わず
お賽銭を少しはずみて初詣
大吉は今年も出でず初みくじ
風花の意志ある如く舞ひ上る
山茶花の残る一輪凍てにけり
万物に注ぐ日の出や初詣
瀬の水の還らんとして過疎の雪
息災と一行記すお元日
うとうとと座椅子の妻の女正月
杖引きて試歩のどこまで去年今年

國田 貞子
片岡 包女
間 浩太
津田 久美
大川 節弥
植田 紀子
川村 博子
友草 水月

名句鑑賞

水月

曙や白魚白きこと一寸
松尾芭蕉
朝早く海辺で掬い上げた一寸ほどの白魚の白が光つて見える。四手網で掬い上げたばかりの体長一寸(約三厘)程の白魚が跳ねている。早春の薄暗い曙に白魚がほんのり白く浮きあがり寒気を和らげている。「白魚の白きこと一寸」とずばりとした表現は白魚の半透明を純白であるかのうように感じさせる。また薄明かりの中、一寸ほどの白魚「しろきこと」と強調し白魚の命の充実感を捉えている。
芭蕉は「舌頭に千転せよ」即ち何回も声を出して句を唱えようと言っている。この句は白魚の命の躍動を捉えてリズムカールに仕上げた一句である。

次題 「当季雑詠」五句

締め切り 毎月5日

投句先

社会教育課

いの町3597

電話 893-2012

今月のごども川柳

さくらの木 春にさく花 じゅんぴん

枝川小 3年 古味あかり

(評)小学3年生の鋭い観察力にびっくりさせられた。思いもよらない発想を大切に育てたいと思います。

おんがくは こころをつなぐ メロディイ

枝川小 2年 市川 あい

(評)おんがくにもいろいろある。人の心と心をつなぐメロディーに気付いた小学2年生の感性、大事にしたいですね。

家ぞくはね たからものだよ たいせつだ

川内小 2年 西内ゆいね

どこからか 聞こえてくるの 秋の音

枝川小 6年 土居 凜乃

ふゆのあさ いきをはいたら まつしろだ

枝川小 3年 北村 めい

お父さん やさしい手をね だきしめて

伊野小 3年 佐々木れんと

クリスマス 家族みんな たのしもう

川内小 5年 西内 琴音

教頭先生 いつもえがおで 元気だな

枝川小 6年 石元ゆうせい

冬にはね おいしいおなべ 待つてるよ

枝川小 3年 大家 かい

冬の日は いきが白くて 手がひやい

枝川小 6年 片岡 華音

※「ごども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。27年度初回提出締め切りは5月8日(金)です。たくさんの方の応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)

※選評は、川柳連会の皆さんにお願いしています。